

栄養学的・臨床的評価

小腸および大腸の下痢の特徴

要因	小腸*	大腸*
糞便		
量	正常～大幅に増加	正常～減少
堅さ	非常に水分が多い～半固形化 (標準糞便スコア 6 または 7)	半固形化、ゼラチン状 (標準糞便スコア 4 または 5)
血液	混入している場合は、暗色または黒色、タール様の外観	混入している場合は、鮮やかな赤色、新鮮な外観
粘液	ほとんどない	よくある
色	変わりやすい	正常
脂肪	ときどきある	ない
排便		
テネスマス(しぶり腹)	ない	ある
緊急度	正常～やや増加	顕著に増加
頻度	正常～増加	顕著に増加
関連する徴候		
嘔吐	ときどきある	ほとんどない
膨満	ときどきある	ほとんどない
食欲	正常、減少または増加	通常は正常
体重減少	よくある	ほとんどない
* 場合によっては、小腸と大腸の両方から発生することがあり、臨床的徴候も異なります。		

参考文献

Tams, T. R. (1996). Gastrointestinal symptoms. In T. R. Tams (Ed.), *Handbook of small animal gastroenterology* (pp. 44-45). Saunders.

Hall, E. J., & Day, M. J. (2017). Diseases of the small intestine. In S. J. Ettinger, E. C. Feldman, & E. Côté (Eds.), *Textbook of veterinary internal medicine: Diseases of the dog and the cat* (8th ed., p. 3669). Elsevier.